

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

4月21日発行

第1号

文責 中野善文



創立40周年の記念すべき年に！Jump Up

令和5年度がスタートしてから、あっという間に2週間が経ちました。

今年度の全校生徒数は、昨年度に比べて6名多い44名です。それぞれの個性や多様性を認めながら、生徒全員が「この学校に入ってよかった」と思える安全安心な学校を築いていきたいと考えています。

今年度の学校経営については、下図の「まなびフェスト」にお示したように、引き続き学校教育目標「自主・創造・躍進・敬愛」の四つの旗を掲げ、「白樺のように凜と美しく、闘牛のように勇ましく」「自ら気づき、考え、実践する生徒」の育成に努めて参ります。



各ご家庭から提出いただいた「わが家の『まなびフェスト』」の一部を紹介します。

- ・規則正しい生活、心身ともに健康に。
 - ・学習に集中して取組み、日常会話を大切に。
 - ・段取り八分、仕事二分。
 - ・冥冥之志（黙々と努力すること）。
 - ・感謝の気持ちを行動で伝えます。
 - ・地域の人と交流を深め、あいさつをする。
 - ・文武両道。
 - ・早寝、早起き、朝ごはん。
 - ・家庭学習100分・家庭学習2時間以上。
 - ・何でも聞ける、何でも話し合える、学び合えるわが家。
 - ・家族の一員としての役割を果たす。
 - ・思いやりをもった行動を心がける。
 - ・七転八起。
 - ・やりたいことの前にやらなきゃいけないことをする。
- 各学期ごとに「わが家のまなびフェスト」の取組を振り返り自己評価していただきます。

久慈地区を代表して山中の伝統文化を披露します

記念すべきこの年に、久慈地区の代表として岩手県中学校総合文化祭のステージ発表に出演することは、巡り合わせとはいえ運命的なものを感じます。生徒会そして3年生を中心に、総合的な学習の時間「地域学」を土台とした演劇を発表し、県下に山形中および故郷やまがたの素晴らしさを広めたいと考えています。

また、学校運営協議会ならびにPTA 役員の皆様のご助言をもとに、この40周年と県ステージ発表を記念した本校オリジナルの「ソーラン半纏」の製作を進めています。ガタゴンまつり等の地域の催事で山中ソーランを躍り、地域を盛り上げたいと考えています。ぜひ、完成を楽しみにしてください。

第22回岩手県中学校総合文化祭
11月24日（金）県民会館大ホール

発表内容

演劇「やまがた未来ビジョン」（仮題）

総合的な学習の時間「地域学」の
学習内容を土台

生徒会・3年生 ↓ リーダーシップ

山形町の過去・現在
から未来を考える

山形中&山形町の発展

復活！ 東京修学旅行「Make Fun Memories」～絆という宝物～

コロナからの脱却を象徴するように、令和5年度の東京修学旅行が、無事に終了しました。

本校では、4年ぶりとなる東京訪問でしたが、生徒は「Make Fun Memories～絆という宝物～」をスローガンに、自主の旗と敬愛の旗を掲げ、さまざまなことを学びました。

出発前に校長から生徒の皆さんに、次の三つことを話しました。①気後れすることなく主体的に行動すること（見えてくるものが変わります）、②一番のお土産は怪我なく無事に帰ること（その次に土産話・お土産）、③故郷を離れ故郷を見つめる機会とすること（故郷について感じた想いを地域学につなげる）。主な旅程は、以下の通りです。

1日目 国会議事堂 劇団四季「美女と野獣」

2日目 自主研修 ディズニーランド

3日目 浅草散策 東京スカイツリー散策



今回の修学旅行を通して、主体的に計画し行動する力（自主）、仲間との深い絆（敬愛）を培った3年生が、これから体育祭や部活動でどんなリーダーシップを発揮してくれるのか楽しみです。

お知らせ 特設合唱部について

4月7日の学習オリエンテーションで、今年度の特設合唱部について校長から全校生徒に伝えました。今年で29年目を迎える特設合唱部は、全日本合唱コンクールで入賞することを目的に希望者を募り、年によってはオーディションを実施し、高いレベルでの合唱を築いてきました。しかし、今年度は週に1日（水曜日）、講師の先生が音楽の授業の指導に来てくださいますが、常勤の専科がおりません。これまでのような専門的な指導が日々の活動でできないことから、今年度は休部にすることとしました。しかし、合唱は山形中の宝であり大事な伝統文化です。この宝を守り続けるために、生徒会・委員会を中心とした全校合唱の取組を活発に行い、これまで通り地域に元気な合唱を届けたいと思います。また、これまで長年出場してきた全日本合唱コンクールについては、生徒の気持ちを第一に考え、今後決定したいと思います。

探しています！地域コーディネーター

この紙面を通じて、保護者の皆様にお願ひがあります。昨年度まで、地域コーディネーターの岩脇さんが地域の方々に声を掛け、「読み聞かせ」「図書館整備」「花壇整備」等を行っていただきました。そのお陰で、先生方の負担が軽減され生徒と触れ合う時間が確保できました。今年度は、現在その職が空席となっており、適任の方がいないか探しているところです。週1日程度、地域の方々に協力をお願いし、教育活動のサポートをしていただければありがたいです。自薦・他薦は問いません。興味のある方、どなたかご紹介できる方は、お気軽に学校までご連絡ください。

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

5月10日発行

第2号

文責 中野善文



全校44名の個性を
大事にする山中！
第41期生徒会

4月は、儀式や集会等で慌ただしく過ぎ去った1か月でした。

そういう忙しさの中でも、生徒の活動を見ると、一つ一つのことを丁寧に、そして着実に進めていました。その中でも、特に印象に残ったのが、4月20日に実施された生徒総会です。

集合時から「さあ、やるぞ」という意気込みが、3年生から伝わってきました。また、協議においても建設的な意見が多く、「わたしも提案に賛成します。理由は、～だからです。」「わたしも協力するので頑張ってください。」という意見が多く出されました。まさに、これからの山形中をどのようにより良くしていくのかを、全校生徒が一つになって話し合った素敵な時間でした。

議案書の中には、**明るい挨拶**という言葉が繰り返し出てきましたが、先日からバレーボール部の生徒が、毎朝校長室にあいさつをしに来てくれます。おそらく、部延長に向けて頑張るぞという気持ちと明るいあいさつを広げようという気持ちを行動に移したのだと思います。そのおかげで、わたしの1日のスタートは、とてもすがすがしく明るいものになりました。

第41期生徒会スローガン「輝笑天結～個性は多彩に心は一つに～」のスローガンのもと、全校生徒44名でどんな物語を創り上げていくのか、今からとても楽しみにしています。



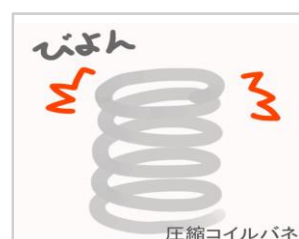
悔しさをバネに…!? 君ならどうする？

4月にいくつかの競技において大会が実施されました。本校でも、クラブもしくは個人で参加した生徒がいます。当然のことながら、負けたり力を発揮できなかったときに「悔しい」という気持ちになります。おそらく参加した多くの生徒が、「悔しい」と感じたのではないのでしょうか。

生徒に、「悔しいという気持ちは、プラスかマイナスか」と聞いてみました。多くの生徒がプラスであると反応しましたが、これは受け止め方によって変わってきます。「もうあきらめよう」と感じるのか、それとも「この悔しさをバネに」と感じるのかで変わってきます。多くの生徒がプラスと感じたのは、後者のようにあきらめない気持ちを持っているからなのでしょう。～比喩的表現「バネ」の性質とは～

「バネ」の性質のひとつに、「エネルギーの蓄積と放出」があります。強い力が加わればその分エネルギーを十分に蓄え、大きな力を放出することができます。みなさんも、努力をたくさん積み重ねて力を蓄えると、

その分大きな力を発揮できることとなります。しかしながら、一人で努力を積み重ねるのは難しいものです。悔しい気持ちを仲間と共有し、互いに励まし合って取り組むとその力はさらに倍増します。「悔しさをバネに」、これからの練習試合や大会に臨んでいきましょう。



チャレンジする気持ち ☆ あきらめない気持ち

校報「やまどり」(No.3)でもお知らせしましたが、今年の盛岡市内一周継走大会は「チャレンジする気持ち」と「あきらめない気持ち」の尊さを示してくれました。

近年、生徒数が減少傾向にある中で、盛岡一周継走大会への小規模校の参加数が減少しています。本校もどちらかというと長距離を得意とする生徒は多くありません。今年の参加は厳しいかと半ばあきらめていましたが、生徒同士が声を掛け合って、自らの意思で出場することを決めてくれたことを嬉しく思います。(ポスター：下館春稀さん作)



本校は、スクールバスを利用する生徒が全校の半分以上を占めるとともに、登校時は小学校と同じスクールバスを利用していることから、他校に比べて時間の制約が多いです。そのため、全員がそろって練習する機会が少なく、家庭での自主練習が重要なポイントとなりました。3年生は本番に備えて、修学旅行2日目の早朝トレーニングに選手全員が参加し舞浜の地を走りました。



大会当日の天候は、決して良いコンディションではありませんでしたが、チーム全員が一丸となって襷と絆をつなぎました。大会に出場した多くの選手(1,200人)に加え、沿道に立ち並ぶ多くのギャラリーに囲まれ、緊張や不安等の重圧があったと思いますが、全員が粘り強く最後まであきらめることなく走り切った姿はそれぞれに輝いていました。また、チーム全員で仲間を応援・鼓舞する姿は、とても美しかったです。改めて、学校の代表として出場してくれた特設陸上部の皆さんに感謝するとともに、これまでの努力と大会当日の頑張りを、校長として大変誇らしく思います。

この大会は、おそらく出場した選手だけにしかわからない貴重な経験になったことと思います。そして、この経験は必ずやこれからの長い人生において大きな力を発揮する原動力になるものと信じています。駅伝に限らず、本校の生徒の皆さんにはいろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。

夏には、地区駅伝大会が野田村で開催されます。皆さんもチャレンジしてみませんか!?

～長距離走のトレーニング方法を紹介します～  特設陸上部

長距離走のトレーニングは、まず目標タイムを設定しその目標タイムをクリアするには、どのくらいのペースで走ったらよいのかをイメージします。例えば、3kmを12分で走るとすると、1kmを4分、200mを48秒、100mを24秒のペースでそれぞれ走ればよいことになります。一般的な練習方法として、タイムを意識したペース走やインターバル走、心肺機能や足を鍛えるためのロングジョグ、後半に強くなるためのビルドアップ走などもあります。特設陸上部では、これらをチームのみんなで取り組みます。



上を目指せば当然厳しい練習にもなりますが、この競技に魅了される人が多くいます。それは、練習が結果につながりやすいこと、目標をクリアしたときの達成感が爽快であること等が考えられます。

わたしも中学校時代に、サッカー選手としての体力づくりを目的に駅伝大会に出場しましたが、結構自主練習にはまりました。久慈川沿いの堤防、早朝の前浜、いつも頭の中を爆風スランプの「runner」が流れていました ♪

体育祭に向けて、みんな楽しそうに練習に取り組んでいます。本番をどうぞお楽しみに!!

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

6月7日発行

第3号

文責 中野善文

忙しく充実した5月→仲間と共に挑む6月

いよいよ6月になりました。生徒に5月の振り返りと6月の目標を聞くと、「とにかく忙しかった」「充実していた」という振り返りとともに、「6月は中総体に向けて頑張りたい」という声が多く聞かれます。3年生にとって最後の中総体を、全校のみんなで支えようという気持ちが自然と伝わってきます。

部長会からの申請で始まった部延長は、「先生方やコーチの方など、支えてくださっているすべてのみなさんに感謝の気持ちを持ちながら頑張る」という約束のとおり、時間を大切に集中した取組と大きな声による挨拶が、各部の活動において見られます。

最後の大会に向けて、悔いを残さないように頑張る3年生とそれを支えようとする下級生、生徒の頑張りに応えるように共に汗を流しながら熱心に指導される先生・コーチの方々、今、山形中学校は、中総体に向けて全校が一つになって取り組んでいます。

部活動の地域移行や働き方改革の推進が求められる昨今ですが、部活動のもつ意義の大きさを改めて感じているところです。

中総体に向けて、一昨日の全校朝会では、卒業した2人の先輩の作文を紹介しました。

私が入部したとき、部員が少なかったので1年生から出場しました。結果はぼろ負け。

わかっていたけれど悔しかったです。でもそこから、県大会に行けるくらい強くなりたいと思うようになりましたが、初戦負けや県大会手前で負けることが多かったです。やってきた本番団体戦。特に心に残っているのが久慈中との地区代表決定戦です。第1ダブルスを落としてしまって私の番。ここを落としたり負けが決まってしまう。あまりの緊張からはじめはミスが続きました。しかしずっと聞こえていたのがみんなの声援でした。私にとって、とても心強くパワーをもらえました。結果は、2-0で勝利。次につなげたことの安心感とまだ残る緊張感で気持ちが不安定でした。みんなでダブルスの二人を応援。試合中ラリーが途切れるごとにドキドキしました。そして、試合終了。シャトルの落ちていた先は、相手コート。やっとつかんだ県大会。すごく嬉しかったです。

部活動では、仲間と協力し合い、部全体で強くなれるように活動しました。

個人で、良い結果を残したい気持ちは、もちろんありました。でも、それ以上に、山中として良い結果を残したいという気持ちのほうが強かったです。常に努力し、2年生のときには団体優勝、3年生の中総体では、とても悔しかったけど準優勝。この良い結果を残せたのは、全員で協力してきたからこそ、成し遂げられたのだと思います。

<中総体のキーワード>

**努力 悔しさ 仲間 緊張
協力 ミス 応援 パワー**

先輩方の作文には、個人の頑張りはもちろん、仲間と思いを共有し、協力し合い、励まし合うことで、良い結果を残すことができたことが記されています。

昨日の抽選会で対戦相手も決まりました。対戦相手は誰であっても、これまで頑張った自分を信じ、共に練習に励んだ仲間を信じ、思い切ったプレーで挑んでほしいと思います。

◆高い志 ◆と◆挑戦する気持ち◆を大切に

4月の盛岡一周継走に引き続き、特設陸上部の8名の選手が、5月28日に開催された久慈地区通信陸上競技大会に挑みました。

個人種目は、2年男子100m、2年女子100m、共通女子200m、共通男子走幅跳、共通女子走幅跳、共通女子砲丸投の6種目に出場、団体種目は、共通女子4×100mリレーに、昨年度低学年女子リレー4×100mで県大会に出場した選手が、それぞれ出場しました。

短い練習期間ではありましたが、それぞれの目標に向かって、選手同士で声を掛け合いながら技術の向上に努めました。当日は、あいにくの小雨でしたが、練習の成果を発揮して多くの選手が自己記録を更新しました。

このように、高い志をもっていろいろなことに挑戦する生徒がいることが、他の生徒に刺激を与え、みんなが何かに挑戦しようという雰囲気や育てていきます。そして、それぞれが何かに挑戦することで、学校に活気が生まれ互いの成長を育んでいきます。このような循環こそが、本校学校教育目標「自主・創造・躍進・敬愛」の営みと言えます。

1年生の皆さんも、ぜひ先輩たちの姿を見て、いろいろなことに挑戦することを大いに期待しています。



目指せ!美しいハーモニー♪ 全校の歌声で♪



本通信1号で、今年度は特設合唱部を休部とし、生徒会・委員会活動を中心に全校合唱活動を充実させること、全日本合唱コンクールの出場については、全校の生徒ならびに先生方の考え、合唱の技術指導等を総合的に考え判断することをお伝えしました。

全校生徒によるアンケート結果、今後の発表会（地区合唱交流会・県中学校総合文化祭）への全員参加とその練習、合唱の技術指導等、これらを総合的に判断し、今年度の全日本合唱コンクールへの出場は見送ることとしました。

しかし、このことは、全校合唱の質をより高めるための前向きな選択と捉えてほしいと思います。

まずは、7月12日に開催される「久慈地区中学校合唱交流会」に向けて練習を積み、素晴らしいハーモニーを会場に届けてほしいと思います。そして、地域を元気にする合唱を文化祭で、11月に出演する「岩手県中学校総合文化祭」では、演劇の最後を、テーマとなる合唱曲で締めくくってほしいと思います。



やまどりの遊ぶ丘辺に～♪ まささかの…!?

先日、1階ホールのガラスを突き破って、やまどりが侵入しました。幸いなことに目立った外傷もなく、無事に外に飛び立っていきました。改めて、校歌の情景の素晴らしさと歌詞に込められた想いについて考える機会となりました。

「やまどりの遊ぶ丘辺に そびえ立つ 我らが母校」⇒「いそしまん 学びの道に」（自主）

「つつじ 咲く希望の丘に 仰ぎ見る 我らが母校」⇒「求めなん 青春の知恵」（創造）

「白樺の揺れる丘辺に 陽に映えて 我らが母校」⇒「果たさなん 我らが使命」（躍進）

この素敵な校歌を、みんなで想いを込めて、これからも歌い継いでいきましょう。

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

7月24日発行

第4号

文責 中野善文

躍進の74日間！ 次のステージに向けて ～1学期の振り返りと2学期の展望～

4月6日（木）からスタートした令和5年度。74日間の学びを無事に終え、明日から夏休みになります。この1学期を振り返るとともに2学期の展望を述べたいと思います。

まず、校長として全校44名の通知表をしっかりと確認しました。そこには、学習の頑張りの他、行事や大会等を通じて一人ひとりが成長した様子が丁寧に記されていました。

行事

3年生のリーダーシップの下、全員がチーム目標の実現のために全力で取り組んだ体育祭は、一人ひとりの「自主の精神」・「敬愛の精神」を育み、全校の連帯感を深めました。一枚岩となって成長した山形中学校は、その後の中総体にも、全校が心をついに大会に臨み、例年以上の好成績を収めることができました。

3年生の東京修学旅行、2年生の盛岡宿泊研修、1年生の山形野外活動とも、地域学の視点とキャリア教育の視点をもち合わせながら、将来の自己の生き方と将来の山形を考える貴重な機会となりました。

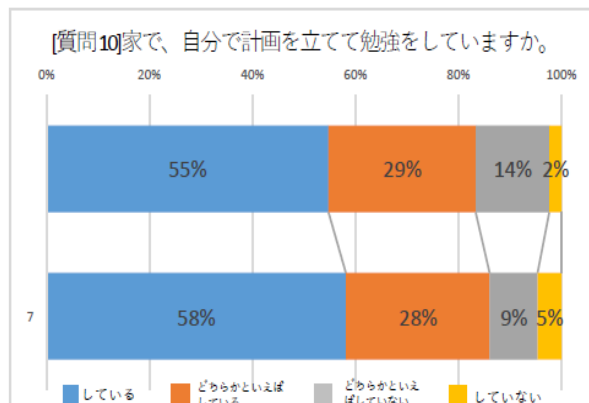
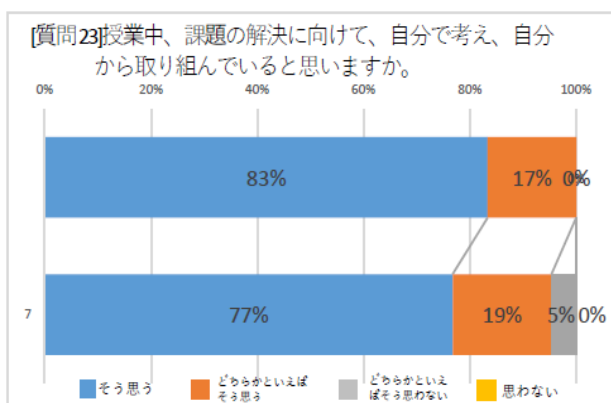


学習

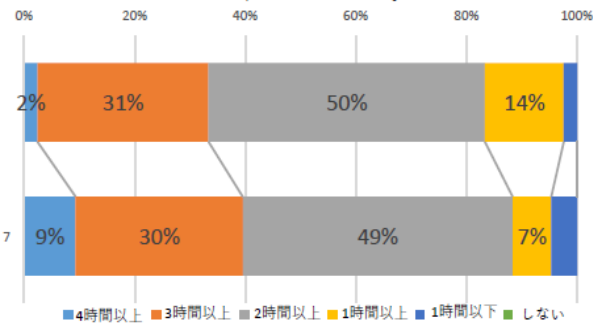
今年度の授業改善の視点として、先生方は「主体的な学び」「個別最適な学び」を重点に置いて取り組んでいます。生徒が意欲をもって授業に臨むような工夫と解決までの見通しをもってそれぞれに取り組めるように工夫しました。

また、ロイロノート（タブレット）を活用して調べたり、他の生徒の考えと自分の考えを比較したり、自分なりの方法と自分なりのペースで学習できるように、今求められる学習のスタイルに近づいてきたように思います。では、生徒の学習の様子はどうだったでしょうか。

今回は、隔月（5,7月）で実施している質問紙調査の結果をもとに考えてみます。



【質問9】学校の授業以外で、平日（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。



生活

学校での生活は、何事に対しても素直に真面目に取り組む姿勢が立派でした。2学期は、「自ら気付き・考え・行動する姿」がもっと見られることを期待します。例えば、清掃の時間が残っていたら、普段手が行き届かない場所を進んできれいにするとか、大会や地域等の校外活動で、保護者や関係者の方がいらしたら、個人でもチームでも自ら進んであいさつするなど、大谷選手のように自分を高める行動を、わたしも含めて心がけたいものです。

家庭生活では、スマホ等の通信機器の利用が気になっていましたが、使用時間が少し減少したように感じます。夏休みは、タブレットを利用した学習も有効に行ってほしいですが、YouTube やゲームの誘惑が待っているかもしれません。どれだけ自制心をもって過ごせるか？夏休みの大きな鍵を握ります。

この他に、時間にゆとりのある夏休みだからこそ、読書にも親しんでほしいと思います。読書は、学力・人間力にも影響する価値ある営みです。

2学期の展望

生活・学習・部活動（新人戦）・文化祭・合唱・演劇（県総文祭）
白樺植樹・闘牛大会・ガタゴンまつり

2学期は、1学期に積み上げてきたものを更に発展させ、成果を発揮する学期になることを期待しています。学習面では、夏休みの計画的な取組が重要です。宿題（基本的には1学期の復習）を早めに終わらせ、高校入試・夏休み明けテストに向けての自主学習を行いましょ。

1・2年生は、新人戦に向けて、技術・体力の向上が求められます。特設陸上の練習で体を鍛え、部活動で基礎・基本となる技術をしっかりと身につけ、応用練習へと進んでいきましょう。

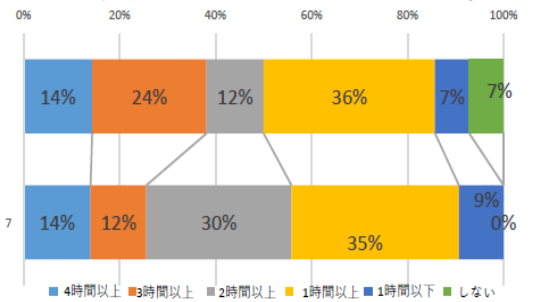
新人戦を終えると、文化祭に向けての合唱・演劇練習が本格化します。地区合唱交流会では、きれいなハーモニーが高く評価されました。まさに、これまでの先輩方が築いてきた山中らしい素敵な合唱でした。更なる高みに向けて、どんな練習をしたらよいのかを先生方と相談しながら練習を進め、文化祭・久慈市音楽発表会で更に進化した歌声が会場に響くことを願っています。

今年度の最大の山場である岩手県中学校総合文化祭も2学期に控えています。地域学で学習した過去と現在を繋いで、テーマである「故郷の未来について」観客の心に深く残る演劇を発表しましょう。テーマに関わる具体的な取組となるのが、夏休み中の「白樺植樹」、夏休み明けの「ガタゴンまつり」、さらには「闘牛大会」です。山形町の大切なこれらの宝を、中学生の皆さんの力で大いに盛り上げてほしいと願っています。間もなく、山中オリジナルのソーラン半纏も完成します。新生「山中ソーラン隊」の活躍を大いに期待しています。

【保護者の皆様へ】白樺植樹に家族で参加してみませんか。昨年の白樺植樹に、わたしは家族と一緒に参加しました。5年後、10年後、白樺とつつじの成長を家族で確かめながら、年齢を重ねていきたいと考えています。家族の絆と故郷を愛する気持ちを大切にしたいものです。

授業中の取り組む姿勢、家庭学習の計画及び学習時間とも、アンケート結果からは良好と言えます。諸テストの結果から課題と捉えているのが、「理由を挙げて、自分の考えを書く」、「条件（字数、～という言葉に続けて等）に従って書く」等の記述問題です。自分の考えを明確にし、協働の学びを通して考えを広げたり深める中で、思考力・判断力・表現力を高めていきたいと考えています。

【質問8】平日（月曜日から金曜日）に、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを利用しますか。



白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

8月18日発行

第5号

文責 中野善文

いよいよ2学期が始まりました！

～学校評価アンケートから2学期を考える～

24日間の暑くて長い夏休みが終わりました。健康的に日に焼けた生徒の姿に、成長の様子がうかがえます。たくましく成長した生徒の皆さんが、これからどんな活躍を繰り広げるのか非常に楽しみです。2学期の授業日数は、物事にじっくりと取り組むのに十分な88日。1学期の反省をもとに、それぞれの学習及び生活の目標を立て、主体的に取り組んでいくことが求められます。そして、その取組が一人ひとりの力を伸ばすとともに、学校全体のレベルアップにつながることを大いに期待しています。

また、2学期は、様々なイベントがあります。文化祭・合唱発表会、そして県中学校総合文化祭。山形中学校40周年の伝統と地域学やNEWソーラン半纏などの新たな文化を融合させ、山形中学校と山形町の素晴らしさをいろいろな場で発信してほしいと考えています。

<「まなびフェスト評価」 & 「学校評価」から2学期を考える>

項目	昨年度		1学期		生徒昨年度比	教職員 (%)
	保護者	生徒	保護者	生徒		
1 学習に集中して取り組む生徒 (80%以上)	62.2%	92.1%	72.5%	97.7%	5.6%	100
2 家庭学習に積極的に取り組む生徒 (1年生 70分 2年生 80分 3年生 90分 80%以上)	68.4%	92.1%	70.7%	88.6%	↗3.5%	83.3
3 学校生活が楽しいと思う生徒 (80%以上)	81.6%	76.3%	90.2%	86.4%	10.1%	100
4 明るいあいさつができる生徒 (80%以上)	92.1%	97.4%	95.1%	93.2%	↗4.2%	76.9
5 規則正しい生活をする生徒 (80%以上)	81.6%	89.5%	82.9%	88.6%	↗0.9%	100
6 部活動に積極的に取り組む生徒 (90%以上)	76.3%	86.8%	87.8%	88.6%	1.8%	84.6
1 自分にはよいところがある	86.8%	73.7%	90.2%	65.9%	↗7.8%	100
2 将来の夢 (目標) をもっている	71.1%	71.1%	78.0%	84.1%	13.0%	84.6
3 学校行事に積極的に参加している	92.1%	92.1%	100%	95.5%	3.4%	100
4 自分の考えをしっかり表現できる	76.3%	76.3%	82.9%	86.4%	10.1%	69.2
5 相手の立場や気持ちを理解した言動ができる	84.2%	92.1%	82.9%	93.2%	1.1%	92.3
6 学校の様子をよく話す	92.1%	84.2%	90.2%	90.9%	6.7%	100
7 先生に相談しやすい	86.8%	73.7%	80.5%	81.8%	8.1%	84.6
8 情報発信を適切に行っている	92.1%	92.1%	85.4%	95.5%	3.4%	100
9 保護者と意思疎通を行っている	89.5%	100%	85.4%	93.2%	↗6.8%	100
10 いじめ防止に取り組んでいる	97.3%	97.4%	85.4%	86.4%	↗11%	100

■ 重点目標 80%を下回った項目 ■ 県の目標値を下回った項目 ■ 教職員が課題と捉える項目
■ 昨年度比 8%上回った項目 ■ 昨年度比 8%下回った項目

この評価は、肯定的評価（4段階評価の4と3）の数値を基に作成したものです。昨年度との比較をもとに、1学期の学校経営について振り返ってみたいと思います。

1 重点項目について

・【項目1】学習に集中して取り組む生徒【項目2】家庭学習に積極的に取り組む生徒

昨年度と同様に生徒評価と保護者評価に大きな隔たりがありますが、保護者評価が昨年度に比べて高くなっています。先生方が授業改善を進める中で、生徒の学習意欲及び集中力が高まっていると感じます。家庭学習は、生徒が計画的かつ主体的に取り組めるように「授業との連動」と帰りの会での「振り返りを生かした家庭学習」による支援を続けていきます。

・【項目3】学校生活が楽しいと思う生徒

生徒・保護者とも評価が高まり、多くの生徒が「学校生活が楽しい」と感じていることを嬉しく思います。学校生活の多くの時間を授業が占めていることから、引き続き授業改善に努めるとともに、教育相談や一人ひとりを大切にする生徒指導に努めていきます。

・【項目4】明るいあいさつができる生徒

保護者・生徒とも高い評価をしています。普段から意識してあいさつを頑張っている成果です。但し、教職員が目指すのは一段階上の、「一人でも校外でも、積極的にあいさつができる」です。今後も大人が範を示しながら、自ら積極的にあいさつできる生徒の育成に努めていきます。

・【項目5】規則正しい生活をする生徒

保護者・生徒とも目標値を超えており、良好な家庭生活が送られていることを嬉しく思います。スマホ利用等の影響が出るかと心配されましたが、今後もPTA連合会及び家庭のルールを守りながら、則正しい生活を送ってほしいと思います。

・【項目6】部活動に積極的に取り組む生徒

目標値をわずかに下回りましたが、3年生を中心とした中総体に向けての取組はとても素晴らしかったです。新体制での活動にも慣れ、大きな声ではつらつとしたプレーが見られるようになってきました。新人大会に向けて、生徒が主体的に取り組む部活動を大切にしていきます。

2 重点項目以外について

・【項目1】自分には良いところがある

学年によって傾向が異なりますが、昨年度に比べて低い結果となりました。生徒会取組「Good tree」「Good Word」を通じて、生徒一人ひとりの頑張りや言葉がけの良さが確認されています。今後も、一人ひとりの良さを教職員が褒め、生徒同士が認め合いながら、楽しい学校生活を築けるように努めていきます。

・【項目2】将来の夢（目標）をもっている

3年生が94%と高く、昨年度のキャリアオーケストラや職場体験等が役立っているものと考えられます。現在、ウェルビーイング（持続可能な幸福）の考え方において、「将来に希望が持てる」「ゴールまでには様々な選択肢がある」という考え方が重視されています。「将来自分はどうか」「どんな生き方をしたいか」をじっくりと考えさせながら、将来の夢や目標を語り合うキャリア教育を推進していきます。

・【項目3】学校行事に積極的に参加している

生徒・保護者・教職員とも高い評価をしています。2学期の文化祭についても、岩手県中学校総合文化祭のステージ発表に向けて生徒・教職員が一丸となって、よりレベルの高い演劇と合唱を披露したいと考えています。

・【項目4】自分の考えをしっかり表現できる

生徒と保護者とも評価が上がっています。しかし、教職員の目指すところまでは、残念ながら至っておりません。もちろん、授業を通じた指導がまだ不十分と考えますので、引き続き「自分

の考えを根拠を挙げて説明する」機会を増やしていきます。

・【項目 5】相手の立場や気持ちを理解した言動ができる

生徒と教職員の評価が高いです。本校の生徒は、非常に思いやりにあふれていると思います。今後も個性の尊重、多様性と調和等、お互いを認め共に高め合う指導を大切にしていきます。

・【項目 6】学校の様子をよく話す

昨年度同様に高い評価です。中学生になると学校のことを家庭で話さなくなる傾向がありますが、家庭教育が充実していることの表れです。引き続き、よろしくお願ひします。

・【項目 7】先生に相談しやすい

生徒評価が高まったことを嬉しく思います。引き続き日頃からの声掛けを大事にするとともに、教育相談を定期的実施し、相談しやすい場と雰囲気をつくっていきます。

・【項目 8】情報発信を適切に行っている

校報「やまどり」は、月に3号のペースで生徒の活躍を中心に12号発信しました。また、必要な情報は、モバイルメールを中心に発信しました。各保護者にきちんと届いているか気がかりです。

☆ 学校で力を入れて指導してほしいことは何ですか？ ☆

順位	指導項目	人	%	
1	学習指導	26	68%	<p>保護者の皆様に、「学校で力を入れて指導してほしいこと」を18項目(その他を含む)から3つ選んでいただくことをお願いしましたが、1人当たりの選択数が2つにとどまりました。この結果を、学校は十分に指導していると捉えたいところですが、慎重に判断する必要があるようです。</p> <p>合計結果を上位から順に、左の表にまとめました。例年と同じ傾向ではありますが、その他として「体力向上」と「合唱」を挙げて下さった方がいらっしゃいます。</p> <p>合唱については、音楽の専科が常勤でいないため、昨年度同様の練習と指導には至っていないのが現状です。文化祭や演劇発表に向けて、早めに準備を進めていきたいと考えています。また、体力向上については、小学校と体育協会等と連携しなければならない課題と捉えています。小さいころから、体を動かすのが好きな子供の育成が町全体の課題だと捉えています。</p> <p>学校では、いずれの項目についても年間指導計画に沿って指導を進めています。今回の結果を意識しながら、保護者の皆様の期待に応えられるように頑張ってお参ります。</p> <p>みなさんの周りに専門的な指導のお手伝いができる方がいらっしゃれば、積極的にお力をお借りしたいと考えています。情報提供をお願いします。</p>
2	部活動指導	10	29%	
3	情報教育	9	24%	
4	友達・仲間づくり	8	21%	
5	進路指導	7	18%	
6	読書指導	6	16%	
7	学校行事	4	11%	
8	道徳の指導	3	8%	
	健康・安全	3	8%	
9	環境教育	2	5%	
	国際理解育	2	5%	
	性教育	2	5%	
	非行防止	2	5%	
10	食育	1	3%	
	地区行事	1	3%	
	復興教育	1	3%	
	その他：体力向上	1	3%	
	その他：合唱	1	3%	

【自由記述から】

- ◇ 平気で道路にごみを捨てている生徒がいると聞こえてきました。小学生レベルだが、もう一度小さな環境活動を考えたりしてもいいのかなと思った。
 - ➔ 非常に残念なお知らせです。道徳や復興教育、各教科においても環境に関する指導を行っていますが、十分ではなかったようです。環境活動の機会については、改めて考えてみたいと思います。白樺とつつじの美しい平庭高原と清らかな流れの久慈溪流に囲まれた素敵な故郷を、皆さんの手で守っていきましょう。
- ◇ 先生方には感謝しかありません。あとは本人の意欲、親の頑張りが足りないと思っています。
 - ➔ 先生方の頑張りを評価していただきありがとうございます。今後も子どもたちの健やかなる成長のために、学校と家庭が協力・連携していくことをお願い申し上げます。
- ◇ コロナも5類になったので、今までいろいろ諦めてきたこと、我慢してきたことが自由にできるようになってきて、少し安心です。残り少ない中学校生活を思いっきり楽しんでほしいです。
 - ➔ コロナによる制限が緩和され、以前の活動を取り戻すことができるようになりました。いろいろな体験を通して、子どもたちの生きる力を育てていきたいと思えます。保護者の皆様にも学校の教育活動に積極的に関わっていただき、子どもと一緒に中学校生活を楽しんでいただきたいと思います。
- ◇ 例えば、休まずやる子と理由があって休みの多い子がいる場合、不自然に足並みを揃えるやり方に疑問を感じます。（部活動についてです）それ以外にも色々疑問に感じるがありますが、担任の先生はよく理解してくれ、子どもも相談しやすいようで、そこは安心しています。
 - ➔ 部活動については、それぞれの生徒の状況に配慮しながら、教育的な指導を大切にしています。また、その一方で、部活動は生徒の主体性を重んじることでありますので、自分の課題にもっと取組みたい等の考えがあれば、それは顧問に遠慮なく相談してください。

それ以外の疑問についても、要望等がありましたら、担任を通してでも構いませんので学校にご相談いただければ、指導の改善や見直しに生かしたいと思えます。

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

8月24日発行

第6号

文責 中野善文

40s

『ソーラン半纏』『背景幕』『校旗』『のぼり旗』

学校運営協議委員の皆様のご助言ご支援の下、制作にとりかかっていた山形中学校PTAオリジナルのソーラン半纏と背景幕、校旗とのぼり旗が遂に完成しました。生地やデザイン等、何度も試行錯誤を重ねましたが、その都度多くの関係者から見本や資料をご提供いただき、創立40周年にふさわしいものが出来上がったと自負しています。



自主 創造 躍進 敬愛
久慈市立
山形中学校

2種類の「のぼり旗」は山中の目印となり、選手を鼓舞することでしょう。

校旗は、3m×4mのBigサイズ。風を切って大きくなびく姿は勇壮です。



久慈市立山形中学校

背景幕は5m×1.8m。風対策の切目を2箇所入れています。



白樺のまじり輝く
闘牛のまじり勇ましく
山形中

山形町の宝・白樺と闘牛をモチーフにしました。デザイン：長坂理恵子先生



これらは、山形町の地域活性化や町おこしのために積極的に活動する団体に対する支援金と旧霜畑中学校学校林から引き継いだ山形中学校PTA特別基金により制作しました。

先日の「ガタゴンまつり」でお披露目をしましたが、今後は「闘牛大会」等の地域イベントに出演する際に活用するとともに、10月の町民総合文化祭および県中学校総合文化祭のステージ発表でも活用します。



山中ソーランおよび合唱で、今後も地域を元気にし、地域と共に発展する学校を目指します。



日本一の白樺林と語り続けるために

今年も8月11日(山の日)に、平庭高原において白樺植樹が開催されました。コロナによる制限も解除され、県内外から多くのボランティアが参加し、250本の白樺の苗木と164本のつつじが植樹されました。本校からも3年生の親子参加を中心に、白樺林存続のために多くの生徒が参加したことをとても誇らしく思います。10年後・20年後に、家族で、友達同士で、成長した白樺とつつじをその目で確かめに行きましょう。思い出話に花が咲き、互いの絆がより一層深まるにちがありません。



「日本一」を誇れるものが地元にあることは、とても誇らしいことです。しかし、この「日本一」を守り続けることは、決して容易なことではありません。「日本一の白樺林」と検索すると、そのほとんどが長野県の八千穂高原に関するものです。ただし、面積・本数等の根拠となる数値については示されていないので、日本一はどこか検証するには至っていません。明らかにしたい気もしますが…今後も日本一の白樺美林を名乗っていきたいと考えます。

もしも、日本一を名乗れなかったそのときには、「日本一奪還」を合言葉に、市や町を挙げて取り組まなければならないのでは…。故郷の宝をいつまでも大切にしたいものです。

◆名演！迷演？◆ 山中教職員による演劇WS

8月7日(月)に「おらほーる」を会場に、脚本家・こむろこうじ先生を講師にお招きし、本校教職員による演劇WS(ワークショップ)を開催しました。

こむろこうじ先生は、長年にわたって「おらほーる劇場」の中心的な存在として、この山形町を盛り上げてこられた方です。ご縁があって、11月の県中総文祭の演劇づくりのアドバイザーをお願いしました。



今回のワークショップの目的は、2学期から本格的に始まる演劇取組を前に、豊かな演劇を作り上げるために大切なことは何かを、先生方が実体験を通して学ぶことにありました。

内容は、こむろ先生が実際に手掛けた公演の一部を追体験する中で、練習の進め方をはじめ音響や照明などのもたらす効果を、実際に肌で感じることができました。わずか3時間ほどのWSでしたが、先生方のつくりあげたステージはとても素晴らしく、山中職員のチームワークと先生方それぞれの高い授業力が大いに発揮されました。

2学期から、3年生の座長ならびに各係長の指示のもと、本格的な取組がスタートします。私たち教職員も今回のワークショップを通して学んだことを指導に生かし、生徒と一緒に素晴らしい演劇を完成させ、文化祭や県中総文祭で披露したいと考えています。

熱中症対策 について

猛暑が続いています。学校では、熱中症危険指数をこまめにチェックしながら活動の可否および活動場所について判断しています。また、水分補給のほかに塩分補給として、部活動前にタブレットを配付しています。先日の地区陸上大会については応援団の帰校を早めましたが、体調不良者が出てしまいました。今回の反省も生かしながら、生徒の安全に留意した判断を進めていきます。状況によっては、下校を早めることをご了承ください。その際は、メールでお知らせします。また、下校後に体調不良をおこす事例が報道されています。帰宅後の健康観察についてどうかよろしくお願いたします。

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信
9月7日発行
第7号
文責 中野善文

最優秀賞受賞！ ことばで伝える 故郷への想い 『どこへ行っても』

2023年9月7日 朝刊

久慈、洋野、野田、普代の4市町村12中学校から12人が出場した。下館さんは人口減少が進む山形地区の状況を説明。闘牛大会やシラカバ植樹、郷土料理まめぶのPRなどを通じて、地域の魅力を広く伝えようとする人たちの「故郷に対す

市) 下館さんは県大会(13日、盛岡市)に出場する。他の入賞者は次の通り(学年はいずれも3年)。
▽優秀賞 粒来佳太郎(中野 林 崎舞海(野田)▽優良賞 久慈未結(待浜) 根井希絆(久慈) 小林稀(種

洋野 わたしの主 張久慈地区大 た」と学んだ。 住民の温かさに触れてき たこれまでの歩みを振り返り、今後地元を離れても自 分の古里はここだと胸を張 っつて言いたい」と主張。地 域を知り、心を寄せること が「私たちができることだ」と言い切った。

洋野

張久慈地区大 た」と学んだ。 住民の温かさに触れてき たこれまでの歩みを振り返り、今後地元を離れても自 分の古里はここだと胸を張 っつて言いたい」と主張。地 域を知り、心を寄せること が「私たちができることだ」と言い切った。

下館さん(久慈中) 久慈地区代表 わたしの主張



最優秀賞の下館春稀さん

2年間の「地域学」の成果！★ 集大成は県中総文祭ステージで!!

9月5日(火)に洋野町民文化会館で行われた「令和5年度わたしの主張久慈地区大会」において、下館春稀さんが最優秀賞に輝きました。本校生徒が最優秀賞に選ばれたのは、平成21年の角美咲さん以来2人目となる14年ぶりの快挙です。

今回の発表は、昨年度から学習している「地域学」で感じたことを中心に、故郷の大切さとこれからについて大人の方と中学生のそれぞれに呼びかけました。まさに、山形中学校の生徒みんなが感じている想いを代表して発表するとともに、「地域学」の学習の成果を示してくれたと思います。春稀さんの発表に対し、参観していた洋野町の中学生男子が全力の拍手を送っていたのが印象的でした。13日(水)の県大会には、久慈地区の代表として出場します。持ち前の明るさと豊かな表現力で、会場全体を魅了してほしいと思います。

いよいよ、文化祭に向けた演劇取組が本格化します。一人ひとりが「地域学」で学んだこと、感じた想いを結集して取り組み、地域や保護者の方に演劇のテーマ「ふるさと」を伝えてほしいと思います。文化祭・県中総文祭のステージが「地域学」の集大成の場です。

【わたしの主張】13名の生徒がそれぞれの考えを聴衆に伝えるために、話の組立、表現方法等、たくさんの工夫をしていました。みなさんも当日の発表テーマについて考えてみましょう。

- ・震災を知らないわたしたちが考えるべきこと。今すべきこととは何か。
- ・地域や学校の伝統を守り受け継ぐことの大切さ。受け継いだ人にもたらされる心の豊かさ。
- ・校則改正を通して感じたきまりの意義。物ごと一つ一つの意味を考えることの大切さ。
- ・かけがえのない故郷。その価値を見つめ直し、若い世代がいかに伝え守り続けるか。
- ・協力体制がうまくいかないときの辛さ。みんなが結束して成功したときの一体感。
- ・言葉が与える影響(喜び、恐怖…)の大きさ。人間関係の大切さを見つめ直そう。

いよいよ明後日から新人戦。春稀さんの活躍に続いて、県大会出場・上位入賞を目指しましょう！

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

10月12日発行

第8号

文責 中野善文

折り返し地点を迎えて（下半期の充実へ）

9月29日の夜、中秋の名月がまぶしいくらいに光り輝いていました。思わず見とれているうちに、竹取物語や枕草子のことなどが思い出され、昔の人たちは月を見ながらさまざまなことを思い、想像を膨らませていたのだらうと思いました。上半期の最後に、素晴らしいものを見られた気がします。



上半期から現在までの活動を振り返ると、「地域学」のテーマとなっている「故郷への思い」が一本の筋となって繋がっているように感じられます。

修学旅行・宿泊研修・山形校外学習のそれぞれにおいて、故郷山形を見つめ直し、白樺植樹やガタゴンまつり、闘牛大会等の地域イベントに多くの生徒が主体的に参加しました。

また、「地域学」を通して学んだことやその思いを、生徒を代表して生徒会長の下舘春稀さんが「わたしの主張」久慈地区大会で発表し岩手県大会に進みました。その内容は、やまがたビジョン委員会においても称賛され、「おらほーるだより」でも紹介される予定です。

自治的活動を次期生徒会に繋げよう！更に高いレベルの学校を目指して！！

10月からいよいよ下半期がスタートしました。

次期生徒会役員を決める役員選挙（立合演説会）において、校長から「学校のレベル」についての話をしました。

「2学期がスタートし、各種大会・コンクールで目覚ましい活躍を示している山形中学校ですが、今の山形中学校のレベルはどのレベルにあるのでしょうか。」



行事を成功させるのは普通のレベル、自分たちの生活を自治的に高められるのがその上のレベル、授業の学び方や学力を高められるのが更に上のレベル。さあ、どのレベルにあるのでしょうか。」

「生徒会役員選挙も学校のレベルを示すものだ」と私（中野）は考えています。学校のリーダーとしてふさわしい役員を選ぶのは普通レベル。立候補者の考えを聞きながら、自分はこうしたらよいかを全員が真剣に考えるのがその上のレベル、選挙後に生徒会全体がリーダーに協力をして学校を高める活動を行えるのが更に高いレベル。」

5名の素晴らしい役員が選ばれました。最上級のレベルの活動を期待しています。

10月21日 山形中学校文化祭 40周年記念ステージをお楽しみください！

現在、10月21日（土）に開催される文化祭に向けて「演劇」「合唱」の取組が本格化してきました。これまで先輩方が築いてきた伝統を受け継いで、成功させようという気持ちが自然と伝わってきます。特に、演劇活動では、3年生が脚本をもとに演技をはじめ、効果的な音響や照明の在り方、舞台背景等のセットづくり、演技を引き立たせるメイクや衣装、そして小道具などを総合的な学習の時間に考え、係ごとに主体的に活動を進めています。

2年間の「地域学」の集大成となる演劇「未来ビジョン・ヤマガタ」と下舘春稀さんの「どこへ行っても」、そして、市英語弁論大会で最優秀賞を獲得した英語弁論（最優秀賞：3年・田中彩遥、2年・清水川結央、優秀賞：1年・佐々木蘭）、山形中の伝統文化である合唱と見どころ満載の文化祭です。どうぞ奮ってご観覧ください。

相次ぐ受賞に、他校の校長から「どうしたら山中のような生徒を育てられるの？」と称賛されました。

演劇「未来ビジョン・ヤマガタ」山形の未来を一緒に考えませんか

あらすじ

とき 2023年(10月)

ところ 山形中学校 平庭闘牛場 酪農家

総合的な学習の時間「地域学」で山形ビジョンの説明を聞いた3年生。

主人公 翠は、故郷の未来を案じ、自分たちでできることはないかをクラスのみんなに呼び掛ける。地域に「今あるもの」をどのように活かすか考え、「闘牛」をテーマとすることにした。実際の闘牛農家を訪問する中で、故郷や地域を思う声を聞き、自分たちのできることで盛り上げたいと決意する。

この演劇をご覧いただいた後には、さわやかな感動とほっこりとした山形(愛)が、皆様の心を温めてくれると思います。

<キャスト>

山形中学校



主人公

翠

クラスメイト

誠 葵 蛍 拓海 俊介 凧

担任

酪農家(山王家)

山王友三(祖父) 雄三(父) 薫(母) 伊予(孫)



白樺王(横綱)

プロモーター アイドル

酪農家(金木家)

金木金次郎 銀次郎(弟)

グレードガタゴン(新横綱)

勢子 闘牛

VS

実況・解説者
観光客

「明るい笑顔の輝く学校」を私たちの手で

本校では、全校生徒が明るく元気に生活するために生徒会が主体となって「NAR運動」や「Good Tree」などの取組を行っています。そのような中、ある問題が起きました。

先日、音楽準備室で生徒を誹謗中傷する落書きが見つかりました。落書きをした人は、もしかすると遊び半分の気持だったのかもしれませんが、その内容を直接目にした人や聞いた人は不安な気持ちや不快な気持ちになったことでしょう。

その日のうちに全校集会を開いて、事実の概要を伝えるとともに、アンケートを行いました。翌朝、情報はなかったこと、憶測で誰がやったなどと軽々しく言わないことを話しました。

放課後、アンケート内容の紹介と意見交流を行い、全校で今後の生活について考えました。

アンケートの感想には、生徒全員が自分ごととして捉え、二度とこのようなことが起きないためにはどうしたらよいかを真剣に書いていました。このことは大変嬉しくも頼もしく感じました。中には、書いた人だけの責任にするのではなく「生徒会全体の活動が不十分だから書かせてしまった」と考える生徒もいました。

今回の件については、生徒だけの問題として捉えるのではなく、校長としての学校経営に問題はなかったか、改めて振り返るとともに、為すべきことは何かを今一度考えたいと思います。

次期生徒会役員を決める立会演説会では、立候補者の多くが「明るい笑顔」の学校を築くことを目標に掲げていました。これは生徒みんなの願いだと思います。今、改めてこれまでの活動の意義を問い直し、新たな目標に向かっていくことが必要なのかもしれませんが。

私たち教職員も、生徒と共に考えながら「安全安心な学校」「明るい笑顔の輝く学校」を築いて行く所存ですので、今後もお力添えをお願いいたします。

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

11月10日発行

第9号

文責 中野善文



『煌星』のごとくキラキラと

～1人1人が輝きを放った40周年文化祭～

「霜月」という名の通り、昨朝は車のフロントガラスに霜が降り、外気温は「-1℃」を示しました。寒暖の差が大きい日が続いていますので、体調管理に気をつけていきましょう。県内でも、インフルエンザで休校となった学校がいくつか出ています。

さて、先月10月21日に実施した文化祭は、創立40周年の記念ステージでしたが、どの発表（わたしの主張、英語弁論、合唱、演劇）もレベルが高く、1人1人が「煌星」のごとく輝く素晴らしい文化祭となりました。発表のほとんどが総合的な学習の時間「地域学」で育んだ「故郷を大切にする思い」を含めた内容で、地域の方々の心に響く発表でした。



これら素晴らしい発表の中でも、特に観覧者の心に響いたのが「未来ビジョン・ヤマガタ」（演劇）でした。地域学で学習した「闘牛大会」と「山形ビジョン」を題材に、山形町の様々な魅力と課題、これからの山形町について自分たちが考え支えていくという熱い思いを届けました。文化祭終了後、当日参観された来賓、闘牛大会関係者、おらほーる劇場関係者の方々が私のもとに中学生への賛辞と感謝の気持ちを届けてくださいました。昨年度までPTA会長を務められた木地谷さんからは、「山中史上最高の演劇」との評価をいただきました。この演劇を通して、来る11月24日（金）に開催される岩手県中学校総合文化祭では、県内各地から集まる中学生に「故郷を愛し、故郷のこれからを支えていこう」というメッセージが心に届くことを願っています。なお、当日は保護者の観覧も自由となっております。

【保護者の方の感想を紹介します。「ありがとう」「お疲れ様」「もっと頑張るって」】

今年の山中文化祭も大変楽しく見させていただきました。英語暗唱やわたしの主張とどの発表も素晴らしかったです。各学年の合唱、どの学年もとてもよかったと思います。3年生の合唱は、全員が楽しそうに歌っていて感激しました。全校の皆さんの頑張りが伝わってきて、とても素晴らしい合唱でした。来年度以降も頑張るって素晴らしい文化祭にして下さい。

この他にも、「常勤の音楽科がない中でよく合唱を頑張った」、「今後も合唱を大事にしてほしい」という感想が多く寄せられました。

山形にまつわる劇は、思わず見入ってしまいました。途中の時間ロスもなくスムーズに最後まで演じられたように思います。県中文祭に向けて修正し、当日は久慈地区代表として堂々と披露してきてください。子供の成長を感じる時間でした。先生方も多忙の中、お疲れ様でした。

一生懸命に役を演じている姿を見ると、普段から何事も真面目に中学校生活を送っていると感じました。ユニークがあり、感動する場面もあり、とても楽しい劇でした。合唱も劇もとても感激し、楽しく見させていただきました。先生方、子供達には感謝とありがとうございます。

心に響く合唱にドラマあり♪

教員生活を振り返ったときに、忘れられない歌というものがいくつかあります。

1年生が歌った「翼をください」、2年生が歌った「栄光の架橋」、どちらもかつて教え子が歌った曲で文化祭当日の発表を聞いて胸がジーンとしました。

そして、3年生が歌った「Oh Happy Day」は観客を魅了するとともに、間違いなくわたしの記憶に刻まれる思い出の一曲となりました。

上手な合唱はたくさん聞いてきました。しかし、記憶に刻まれる歌は特別で、そこには必ずドラマがあります。

今年度は常勤の音楽科がないため、残念ながら専門的な指導ができませんでした。それでも生徒たちは、先輩が築いてきた伝統を繋ぐために学習・合唱委員会が中心となって練習に励みました。合唱委員長の真緒さん、そしてパートリーダーの3年生の皆さんは大変だったと思います。その練習の積み重ねが全校の心をひとつにし、当日は素敵な歌声を響かせました。涙しながら全校をリードした生徒の頑張りを思うと目頭が熱くなりました。全員が主役の素敵な合唱でした。



多くの人から愛された横綱「白樺王」

市内の保育園長さんから、今回の演劇の大事な役どころである白樺王が多くの市民の方から愛された横綱であったことを力説されました。そこで、もっと白樺王について調べようと思い山形総合支所の新井谷さん（平庭べごっこ倶楽部代表）から話を伺いました。



白樺王は、平成20年に戸呂町の下館畜産で生まれ、翌年の秋に久慈市役所職員有志で構成する「平庭べごっこ倶楽部」が購入し共同の所有牛となりました。素質を見込まれた白樺王は、後に何度も譲ってほしいという要望が他県からあったそうですが、地元のために断ったそうです。

2歳になった平成22年6月のつつじ場所でデビューし、若い時期は派手さはないものの相手の攻撃をしっかりと受け止め絶対に逃げないという典型的な「受け牛」の型をこの時期に固めました。

4～5歳期には、相手の牛との駆け引きが上手になり、同年代の牛の中でもトップクラスになり、平成26年に6歳という史上最年少の若さで横綱に昇進しました。昇進後は、数々の牛の挑戦を受け、特徴である「受け」からの切り返しの速さに磨きをかけました。

白樺王の良さは「優しさ」という特徴もあり、相手を徹底的に追い詰めないところや、戦いを終わると気性がおとなしく人に優しいところも多くのファンに愛された所以（ゆえん）です。

白樺王の晩年は、力の衰えも自覚し、若いときにはあまり見せなかった自分から仕掛けて取組を早く終わらせる場面も見られました。その一方で、横綱の迫力に飛び込んでいけない牛がいるなど、最後まで横綱としての威厳と風格を見せてくれました。

平庭闘牛の横綱として9年間(27場所)君臨し続けたことも、闘牛の歴史としては最長であり、その記録を塗り替える牛は今後出てこないと思われます。

令和5年6月引退セレモニーの日。体力的な問題から一番最初に土俵入りをしました。土俵を半分回ったところで白樺王が立ち止まりました…。いつもの位置で相手の牛が入ってくるのを待っていたのでしょ。相手の牛は入ってきません。その瞬間がたまらなく切なかったです。

満員の観客から惜しめない拍手をいただき、白樺王は平庭闘牛場を後にしました。

多くの皆さんに愛され、闘牛ファンを魅了し続けた名牛白樺王。このような牛に巡り合えたことに感謝しかありません。

山形中学校のみなさんには、白樺王を劇中に登場させていただき、本当に感動しました。ありがとうございました。「やまがたビジョン」を達成していくためには、皆さんの力が必要です。

これからも「ふるさと愛」を大事にしていきましょう。(平庭べごっこ倶楽部 新井谷)

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

12月8日発行

第10号

文責 中野善文



会場を感動と笑いの渦に ～山形の魅力&山形中の魅力を発信～

山形中学校40周年を飾る「岩手県中学校総合文化祭」(11月24日)のステージ発表は、会場を感動と笑いの渦に包み込む素晴らしい発表でした。わたしは、何度も観ているはずなのに、思わず吹き出したり、思わず胸がジーンとなったり、「故郷を大切に想う気持ち」を見事に伝えました。

会場にいらした、久慈地区中文連会長・松岡校長先生からは、「山中最高ですね。ぜひ久慈地区の生徒にも見せたい」とお褒めの言葉をいただきました。その他にも多数の校長先生方から「一番良かった」「すごい演技力だった」などの声が寄せられました。

また、岩手県教育委員会教育委員の宇部様からは、当日の感想を綴ったお葉書をいただきました。「県内の中学生もよい刺激をもらった発表でした。」「大舞台で堂々と演技した山中生から元気をいただきました。」とそこには綴られていました。



2023年11月24日 朝刊
2023年(令和5年)11月24日(金曜日) 地域(16)

古里思う心 闘牛に入魂

盛岡できょう県中学校総文祭

山形(久慈)が創作演劇

久慈・山中中等教育委員 佐々木 隆子(とんこ)さん

「闘牛」は、山形県久慈郡の伝統行事で、闘牛士は、牛の角を噛みついて闘う。山形中では、この闘牛の姿をモチーフに、創作演劇「闘牛」を制作した。この演劇は、闘牛の姿をモチーフにした、山形中の魅力を発信する。また、この演劇は、山形中の魅力を発信する。また、この演劇は、山形中の魅力を発信する。

横綱「白樺王」テーマ 地域の魅力発信

生徒たちは、総務課の協力を得て、山形中を代表して、この演劇を発表した。この演劇は、山形中の魅力を発信する。また、この演劇は、山形中の魅力を発信する。また、この演劇は、山形中の魅力を発信する。

開催当日に、本校の演劇の取組が岩手日報で紹介されましたが、こちらについても大きな反響を呼びました。

11月27日に久慈地区退職校長会の先輩方とお会いした際にも、多くの方からお礼と激励の言葉をかけられました。久慈地区退職校長会長で第9代山形中学校長の日沢先生からは、「古里を思う中学生と山形の魅力を大事にしてくれてありがとう」とおっしゃっていただきました。山形中や山形町の学校に勤務された方々からも、「山形町は本当に素敵なところ、それを中学生が大事に思ってくれていることに感激した」という言葉をたくさんいただきました。久慈以外の方々からも同様の声が届いています。

大きな節目を終えた今、感動に浸るだけではなく、これから山形中が目指す道とゴールの姿を共有すべく新たな活動が始動しました。

バトンは、第42期生徒会に繋がれました。山形中の躍進は今後も続きます。



素敵なお作文に出会いました。ほっこり ⇔ 鋭い感性！

JA共済児童生徒作品コンクール<作文の部 特選>

12月6日(水)の岩手日報に、素敵なお作文が載っていましたので紹介します。

小学校の部の特選は、ママをヒーローに例えた内容で、心がウキウキするような温かさが感じられます。一方、中学校の部の特選は、鋭い感性で「多様性」について自分の考えを主張していて、「様々な人が活躍できる社会」の実現に向けた強いメッセージが感じられます。

「多様性」。この言葉が、この言葉が毎日のように見聞きしている。新聞の大きい見出しや学校の道徳の授業で扱われるのはもちろん、学校の友達でも話題の中心になることがある。二〇二〇年代に入ってから急激に使われるようになったこの言葉は、皆さんの心を救い、自分を認めてくれるような居場所となったことだろう。「多様性」という見出しで、メディアに取り上げられている人たちは自分の性に悩まされてきた人や、身近な人との価値観のずれなどでショックを受けている人が特集されている。その影響もあってか、この人が社会に出たら人付き合い大変さだな、とか、ちゃんと職について活躍できるのかな、といった人ごとな疑問しか浮かび上がってこなかった。

たまたまクラスメイトとの会話の中で、自分と同じ性別の人を好きになる、という内容の話で盛り上がる。最近はそのような漫画やドラマが好まれるらしい。私は想像がつかないが、そういうものがあるのだろうかと思つた。そして同時に「多様性の時代だからね」と決まり文句のよう

意味があり、宗教など自分が知らない部類の内容もあつた。様々な人が活躍できる社会は、皆さんの多様性に溢れ、一人が見聞きしたこと以外も考え方があつたのだと納得した。しかし、同時に様々な人が活躍できる社会とは、多様性を認めるだけで済ませているのかと疑問に思つた。以前に新聞などで特集されていた人たちが活躍できる場はあるか？この世に存在し、生きている限り一人ひと

部選 作文の特

多様性を認める、その先へ

岩手大学教育学部附属中2年 八幡まゆみ

うに話している友達には、果たしてその意味を理解しているのかと疑問に感じた。本当の意味を知らなくて「多様性」と検索をかけると「ある集団において性質の異なる群が共に存在すること」とある。また、多様性の具体的な例には人種や国籍、性別、年齢、障がいの有無、宗教、価値観など様々な方面から多様なあり方がある、といった具合だつた。多様性という言葉一つに、皆さんの方面から

どりが自分の持ち味を發揮し、最も高い活躍できる社会であつてほしいと私は願つている。多様な性質を認めない否定しない考え方が広まった世の中になつても「性質の異なる群」と指された人が活躍できるような世の中になつてほしいのだろうか。私たちの住む盛岡市にはヘラルドポニーという福祉実験ユニットがある。そのユニットは「異彩を放つて」をミッションに掲げ、知

なように感性を爆発させて生き生きと活躍する人たちの想像すると、きっと明るい未来が開けると感じる。様々な人が活躍できる社会という点において、大きな一歩だと思つた。身の回りには皆さんの多様性に溢れている。障がい者も一つでありバリアフリーなどの環境改善も進められていることだろう。でも私は誰かの過ごすことを求めるより、生きやすさを求めることの方が重要であると思つている。

中学生の私たちにできることは何か。社会を動かすとか、そういうことはできないが多様性という言葉の本当の意味を知り、認め合える雰囲気があつたらいいなと思う。また「さまざまな人が活躍できる社会」の「さまざまな」には自分も含まれていることを理解し、他者とは違う考えや特性を大切にしたいと思つた。私たちの考え方ひとつで「多様性たち」が活躍できる社会を築き上げることは可能だ。この世の中に溢れる数えきれない「多様性」を認める、その先へ。

ほくが楽しみにしていること、ママが運転する大きなバイクの後ろに乗ることだ。ママはいつもヨレヨレのパパのTシャツをかりて着ていて、おけしようもしないでかみだけはポンパー。ママはパパとちがつて、スーツを着て変身することはない。それがいつものママ。そんなママが、ライダーになるらしい。ほくはとてつもなくワクワクした。正気のヒーローみたい。女だから、ママだからなんてママには全く関係ないらしい。ママが、キラキラかやき始めた。ママのチャレンジが始まった。

今までもずっと家にいたママが、バイクの学校に行くために夜になく、ママもほくと同じように勉強するんだと思つた。学校からママが早く帰つて来て、その姿を見ておそろしい。赤い顔、汗まみれでカソソソくさい。でも、なんだかかっこいい。ママは変わった。ママが、なんだかかっこよかつた。

部選 作文の特

ママライダー

盛岡市立向中野小2年 菊池 大杜

ある日、ママはケガをして帰ってきた。右足に大きなむらさき色のあざ。でも、ママは絶対にあきらめなかった。でもパパは、「もうあきらめたらうほくは心配だよ。」でも、ママは、「ちようせんすることあきらめたくない。」ママが、なんだかかっこよかつた。

たのはヒーローになつてきたからだとほくは思つた。ほくは、ますますママのバイクの後ろに乗るのが楽しみになつてきた。いつものママもほくはとてつもなく大好きだ。でも、今のママはもっと大好きだ。ママは、学校を卒業した。「大ちゃん！二人乗りは免許をとつて一年以上たないといタメなんだって。まっててね。」ほくの楽しみは、一年間のびた。サンタさん、今年のクリスマスプレゼントはヘルメットをください。よろしくおねがいします。

良い文章に触れ、ものの見方や考え方・構成の参考にしてほしいと思います。本校の生徒も、今年度は様々なコンクールで入賞を果たしています。本校生徒の入賞作品は、後日紹介したいと考えています。おまけに冬の一句。「うまさうな 雪がふうはり ふわりかな」(小林一茶) 今朝も雪が積もっていました。雪をどのような視点で見ると印象が変わるのですね。

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

1月16日発行

第11号

文責 中野善文



辰(龍)のように上昇山形中

～『まなびフェスト』アンケート結果を生かして～



明けましておめでとうございます。いよいよ山形中学校2024がスタートしました。

今年は辰年ということで、昇り龍にあやかって個人・山形中学校とも上昇の年になることを心より願っています。そこで、さらなる上昇を目指し本校の成果と課題を「まなびフェスト」の評価結果から考察しましたのでお知らせします。ぜひ、ご家庭でも今後の取組に生かしてほしいと思います。

下の表は、肯定的評価（4段階評価の4と3）の数値を基にして作成したものです。評価結果を1学期と令和4年度とそれぞれ比較しながら、要因と今後の取組について示しました。

1 まなびフェスト重点項目（肯定的評価4と3の合計を基に割合を出したものです）

(1) 学期評価（1学期 ⇄ 2学期）

項目	1学期			2学期		
	保護者	生徒	教職員	保護者	生徒	教職員
1 学習に集中して取り組む生徒（80%以上）	72.5%	97.7%	100%	70.7%	88.1%	93.3%
2 家庭学習に積極的に取り組む生徒（80%以上）	70.7%	88.6%	83.3%	65.9%	85.7%	73.3%
3 学校生活が楽しいと思う生徒（80%以上）	90.2%	86.4%	100%	85.4%	85.7%	93.3%
4 明るいあいさつができる生徒（80%以上）	95.1%	93.2%	76.9%	92.7%	90.5%	78.6%
5 規則正しい生活をする生徒（80%以上）	82.9%	88.6%	100%	78.0%	90.5%	100%
6 部活動に積極的に取り組む生徒（90%以上）	87.8%	88.6%	84.6%	91.7%	92.0%	86.7%

保護者・生徒80%以上

保護者・生徒80%未満

保護者・教職員80%未満

(2) 年間評価（R4 ⇄ R5）

項目	R4年平均		R5年平均		
	保護者	生徒	保護者	生徒	教職員
1 学習に集中して取り組む生徒（80%以上）	65.8%	89.3%	71.6%	92.9%	97%
2 家庭学習に積極的に取り組む生徒（80%以上）	71.7%	90.7%	68.3%	87.2%	78.3%
3 学校生活が楽しいと思う生徒（80%以上）	82.5%	80.1%	87.8%	86.1%	96.7%
4 明るいあいさつができる生徒（80%以上）	94.6%	94.7%	93.9%	91.9%	77.8%
5 規則正しい生活をする生徒（80%以上）	81.1%	88.0%	80.5%	89.6%	100.0%
6 部活動に積極的に取り組む生徒（90%以上）	82.2%	93.4%	89.8%	90.3%	85.7%

<考察>

1 「学習に集中して取り組む生徒」

例年、学期・年間評価とも保護者評価が低く、教職員評価が高い結果です。この結果に注目すると、学校での学習は集中して取り組めていると捉えられますが、今年度は2学期の生徒評価が大きく下がっています。理由は、文化祭後に県中学校総合文化祭が行われたこと、県新人大会への出場が増えたこと等が考えられます。学習と行事・部活動との両立は難しいことですが、今回の結果を今後の指導に生かしたいと思います。

2 「家庭学習に積極的に取り組む生徒」

例年同様に、生徒評価と保護者評価に大きな隔たりが見られます。昨年度の結果を踏まえ、帰りの会での家庭学習の指導をしましたが、考察「1」に記したように、行事及び部活動との両立が原因として考えられます。

現在、タブレットの持ち帰りにより学習方法の幅が広がっています。一人ひとりが自分に合った計画・実行のサイクルを定着できるよう指導していきます。

3 「学校生活が楽しいと思う生徒」

学期・年間評価とも3年連続で上昇し、保護者・生徒・教職員評価が85%を超えました。先生方の丁寧な指導の成果（授業改善・学級経営・教育相談・部活動指導 etc）と捉えます。（一方で、否定的回答があることも忘れずに、上記の指導を行います）

4 「明るいあいさつができる生徒」

学期・年間評価とも、昨年度に引き続き保護者・生徒評価は90%を超えました。

一方で、教職員の評価は昨年度よりも高まったものの80%を下回っています。

2学期終業式で、「本校には素晴らしいあいさつをする生徒がたくさんいます。学校の職員及び関係者にも色々な立場の方がいらっしゃるの、関わってくださっている方々みなさんに心のこもったあいさつをしましょう。」と話しました。

「あいさつは社会の基本」わたしたち大人も手本となるあいさつを交わしたいと思います。

5 「規則正しい生活ができる生徒」

学期評価・年間評価とも、保護者・生徒・教職員評価が80%を超えています。

家庭での生活リズムが整っていることは、健康面だけでなく学習面でも大事ですので、引き続き指導をお願いします。アンケート結果からは、スマホ等のネット利用の時間（特に2時間以上）が増加傾向にあります。家庭のルールを決めて利用するようお願いします。

6 「部活動に積極的に取り組む生徒」

年間評価は目標の90%に保護者・教職員が届きませんでしたが、昨年度よりも高くなっています。活動を見ると、とても活気があり目標に向かって力を合わせて頑張っている様子が伝わってきます。部活動を通して、さまざまな価値を身につけていると捉えています。

また、各部ともコーチをはじめ父母会の皆様の支援があって活動が円滑に行われていることにも感謝申し上げます。

重点項目の多くは目標を達成していますが、学習面に課題があります。3学期は、学習面を中心に最後のまとめをしっかりと行いますので、ご家庭のご理解ご協力をお願いします。なお、重点項目以外については、次号でお知らせします。

1日も早い復興を願って ～東日本大震災を忘れない～

1月1日の能登半島地震でお亡くなりになられた方々のご冥福を祈るとともに、被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。東日本大震災の際には、石川県の方々から多くのご支援をいただきました。個人として学校として、被災地のためにできることを考え実行したいと考えております。また、生徒には「防災意識を高め、命を守る知識と行動を身につけましょう」と話しました。3学期は、避難訓練及び復興教育講演会等の実施により、災害時の身の守り方について学習したいと考えています。ご家族でも災害時の備えについて話題にしていきたいと思っております。

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

1月23日発行

第12号

文責 中野善文

『まなびフェスト』アンケート結果を生かして<Part 2>

3学期が始まって1週間が経ちました。輪島市・珠洲市・能登町の中学生在が家族と別れて集団避難をする様子を見て、身につまされる思いがしました。現在、本校では生徒会が主体となって募金活動をしています。被災地の1日も早い復興を願うとともに平穏な日常生活に感謝し、生徒と共に日々の学校生活を大切にしていきたいと思えます。

前号(11号)に引き続き、「まなびフェスト」アンケートの集計結果及び考察についてお知らせします。ご家庭でも話題にしながら、1年のまとめを一緒に考えてください。

1 重点項目以外の集計結果(肯定的評価4と3の合計を基に割合を出したものです)

(1) 学期評価(1学期 ⇄ 2学期)

項目	1学期			2学期		
	保護者	生徒	教職員	保護者	生徒	教職員
1 自分にはよいところがある	90.2%	65.9%	100.0%	87.8%	83.3%	100%
2 将来の夢(目標)をもっている	78.0%	84.1%	84.6%	70.7%	83.3%	80.0%
3 学校行事に積極的に参加している	100.0%	95.5%	100.0%	95.1%	97.6%	93.3%
4 自分の考えをしっかりと表現できる	82.9%	86.4%	69.2%	75.6%	83.3%	73.3%
5 相手の立場や気持ちを理解した言動ができる	82.9%	93.2%	92.3%	90.2%	97.6%	66.7%
6 学校の様子をよく話す	90.2%	90.9%	100.0%	90.2%	90.5%	86.7%
7 先生に相談しやすい	80.5%	81.8%	84.6%	80.5%	85.7%	86.7%
8 情報発信を適切に行っている	85.4%	95.5%	100.0%	95.1%	100%	100%
9 保護者と意思疎通を行っている	85.4%	93.2%	100.0%	95.1%	97.6%	100%
10 いじめ防止に取り組んでいる	85.4%	86.4%	100.0%	82.9%	97.6%	100%

(2) 年間評価(R4 ⇄ R5)

項目	R4年平均		R5年平均		
	保護者	生徒	保護者	生徒	教職員
1 自分にはよいところがある	85.1%	74.7%	89.0%	74.6%	100%
2 将来の夢(目標)をもっている	67.5%	71.7%	74.4%	83.7%	82.3%
3 学校行事に積極的に参加している	91.8%	93.4%	97.6%	96.6%	97%
4 自分の考えをしっかりと表現できる	81.0%	82.8%	79.3%	84.9%	71.3%
5 相手の立場や気持ちを理解した言動ができる	85.2%	93.3%	86.6%	95.4%	79.5%
6 学校の様子をよく話す	91.9%	84.0%	90.2%	90.7%	93%
7 先生に相談しやすい	86.5%	74.7%	80.5%	83.8%	85.7%
8 情報発信を適切に行っている	90.5%	94.7%	90.3%	97.8%	100%
9 保護者と意思疎通を行っている	89.2%	94.6%	90.3%	95.4%	100%
10 いじめ防止に取り組んでいる	91.7%	94.7%	84.2%	92.0%	100%

保護者・生徒80%以上

保護者・生徒80%未満

保護者・教職員80%未満

【考察】アンケート結果の分析から

1 自己肯定感

生徒評価が年間では74%と昨年同様でしたが、2学期評価は83%と目標を超えました。生徒会の「Good Tree」「Good Word」の取組により、他者の良いところを認め合う中で、それぞれに自分のよさを再確認できたと思います。3年間を分析すると「3年生の2学期末」に自己評価が下がる傾向が見られます。不安の表れだと考えられますので、全職員でサポートしていきます。

2 将来の夢（目標）

昨年度と比較すると保護者・生徒とも評価が高まり、生徒の2学期評価は目標値を上回りました。過去3年間の結果を分析すると、1年生の肯定的回答が50%前後で推移しています。2・3年生は、職場体験等を通して将来の職業についての考えが深まり評価も高くなっています。

3 学校行事への積極的参加

保護者・生徒とも90%を超える高い評価です。2学期は、文化祭に向けて全員が心を一つにして取り組みました。役者をはじめそれぞれの係の力が結集し、素晴らしい演劇が完成しました。また、全校・学年・特設のそれぞれの合唱も心に響く素晴らしいハーモニーで感動的でした。

4 自分の考えをしっかりと表現

学期評価・年間評価とも保護者・教職員評価が、目標値に届きませんでした。今年度は、2・3年生を中心にICTを活用した発表の機会を増やしていて、内容・表現力とも高まっています。

また、交流による学び合いも行っていますが、まずは自分の考えをしっかりとつとこと、その上で交流を深められれば「深い学び」につながると考え、今後取り組んでいきます。

5 相手の立場や気持ちを理解した言動

2学期の教職員評価が低かったことから、全体平均が目標値をわずかに下回りました。「1」で述べた生徒会の取組が自己肯定感の高まりにつながっているものの、校内の生活アンケートには、相手を傷つける言葉やかからかい等の行為が報告されています。ただし、アンケートにおいて本人以外の生徒がこれらの行為を問題として捉えて報告していることから、学校は健全な状態にあると考えています。

6 学校のことをよく話す

保護者・生徒・教職員とも全体平均が90%を超える高い評価となっています。中学生は、思春期で親に話さなくなる時期でもありますが、非常に良好な関係にあることが伺えます。

わたし個人の反省として、子どもの話を鵜呑みにして事実と異なる判断や解釈をしたことがあります。丁寧に聞いてあげながら、時には同調し、ときには教え諭していきたいものです。

7 先生に相談しやすい

令和3年度から改善に取り組み、学期評価・年間評価のいずれも80%を超えることができました。教育相談や生徒との関りを大切にしてきた取組の成果と捉えます。引き続き、生徒の声に丁寧に耳を傾けながら、より相談しやすい環境を整えたいと考えています。

8 情報発信を適切に行っている

1学期は保護者評価が85%でしたが、2学期・年間評価ともすべて90%を超える高い評価となりました。引き続き大事な連絡はもちろんのこと、学校の様子が保護者・地域の皆様によく伝わるように、校報を中心にそれぞれの立場から発信していきたいと考えています。

9 保護者との意思疎通

保護者・生徒とも90%を超える評価で、昨年度よりも更に高い評価となっています。

ただし、積極的否定の方もいらっしゃいます。理由について職員間で十分に検討し、今後の対応に生かすようにしています。今後ご批判を真摯に受け止め経営の改善に努めていきます。

10 いじめ防止の取組

保護者評価が2学期は下がり、年間平均も昨年をやや下回りました。「5」に記したように、生徒も教師もそれぞれに取り組みは行っていますが、「からかいや暴言等のいじめの事案」がなくなっていない。また、2学期に「全校生徒を不安にさせるような落書き問題」がありました。(NO8参照)対策としては、生徒の心を耕しながら粘り強い指導を継続するしかないと考えています。保護者の皆様におかれましても、お子様との会話を通してご指導ならびに適切な情報提供をお願いいたします。

3年間の結果を比較すると、課題項目も良好に変化していて多くの項目で目標を達成しています。

3学期は、学習面を中心に1年間のまとめをし次のステージに進ませたいと思います。

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

3月8日発行

第13号

文責 中野善文

第3回《学校運営協議会》を終えて ～地域の方々に支えられた1年に感謝！～

2月20日（火）に、今年度のまとめとなる第3回学校運営協議会を開催しました。開会に先立ち、令和5年度岩手県中学校総合文化祭「未来ビジョン・ヤマガタ」のビデオ鑑賞を行いました。学校運営協議会の内容は、令和5年度のまとめとワークショップ「地域で育てたい生徒像」について、活発な話し合いがもたれました。それらの内容について紹介します。

第1部 「令和5年度のまとめについて」

- (1) 学校評価について（校長）
今年度の反省と来年度に向けて
- (2) 質疑・意見交換

重点項目「学校が楽しい」「自己肯定感」「将来の夢（希望）」＋「相談しやすい先生がいる」
3年間で大きく評価が高まっている。課題は、家庭学習及び学力向上→工夫改善を進める。

アンケート結果について

成果を上げているものが多く、質疑・意見は出されませんでした。課題（「家庭学習」「学力向上」）については、授業と家庭学習の工夫改善により解決に向けて取り組むことを確認しました。

演劇について

- ・堂々とした演技が素晴らしく、感動した。長い期間練習を重ねてきたことが伝わるものだった。
- ・演劇は、地域学で学習したことを生かしたもので、非常に価値の高い発表になった。
- ・演劇の中でも闘牛やまめぶ、白樺等に触れ、地域を大切にしたい思いが伝わってきた。ただ教わるだけでなく、自主的に関わることで将来の自分のものになると思うし、今後も続けてほしい。涙が出るような素晴らしい演劇だった。
- ・着飾らずに普段着で、大きな声で演技ができていた。思いやりや男女間の交流の様子も見られて良かった。
- ・台本も子どもたちが何度も練り直しながら立派に表現できた。授業でも根拠をもって自分の考えを堂々と発表できるように指導していきたい。

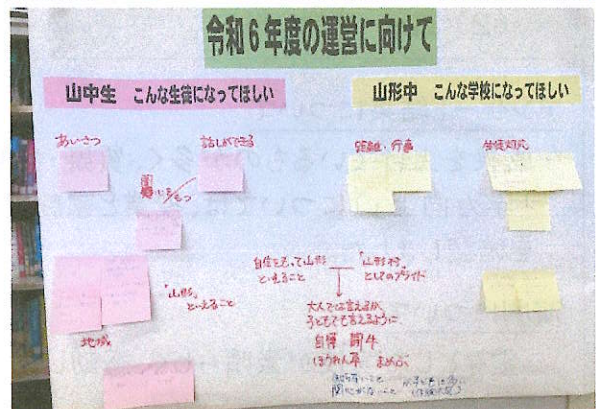
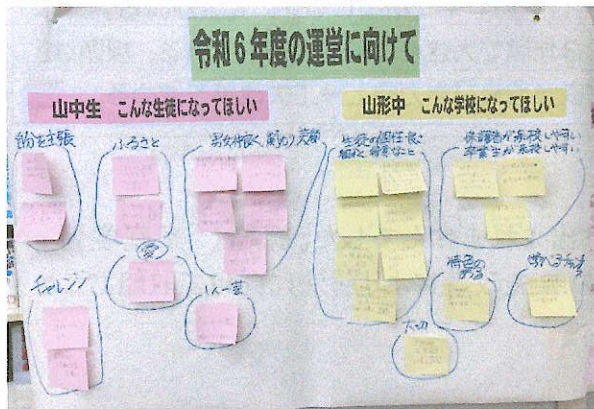
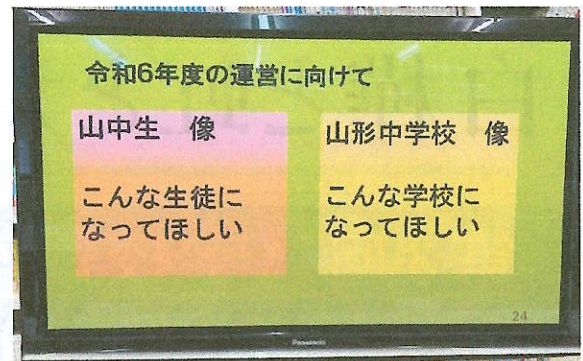
生徒の表現力（作文）について

- ・以前、人権擁護教室を実施した際の生徒の感想の内容が素晴らしかった。人権作文も評価が高かった。生徒の表現力の高まりを感じている。
- ・アンケートを見ても、授業で発表経験を重ねることで、自分の考えをしっかりと発表できると捉えている生徒が増えてきている。卒業生に関しても、自分の意見をしっかりと表現できている生徒が多いようだ。
- ・入学後、様々な授業や行事を重ねる中で、内容の濃い（量の多い）感想や考えを書けるように成長している生徒が多い。

第2部 来年度の運営に向けて

ワークショップ「地域で育てたい生徒像」

「生徒像」と「学校像」をそれぞれに付箋紙に書いて、グループごとに交流しました。



【こんな生徒になってほしい】

- ・自分のことを愛する人
- ・高い自己肯定感
- ・故郷を自慢できる
- ・笑顔が似合う
- ・一人一芸



【こんな学校になってほしい】

- ・個性や良さ、得意なことを伸ばす
- ・保護者や卒業生が来校しやすい
- ・学べるチャンスをつくる、特色を伸ばす
(地域の人材活用)
- ・山形町(地域)を大切にする

【こんな生徒になってほしい】

- ・あいさつ
- ・話ができる、周りと関わっていける
- ・自分は「山形」出身と言える

【こんな学校になってほしい】

- ・地域の行事に積極的に関わる
- ・特色をいかした
- ・「山形(地域)」を誇りに思えるような
- ・様々な体験ができるような
- ・3つの力で生徒を育てる

今回共有した「地域で育てたい生徒像・学校像」をどのように実現するのかについては、来年度の第1回学校運営協議会で協議します。ぜひ、ご家庭でのご協力もよろしくお願いいたします。

今年度は学校運営協議会の皆様から、ソーラン半纏の制作と創作演劇にお力をお借りし満足のいく結果と成果を残すことができました。この紙面を借りて、改めて御礼を申し上げます。

白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

3月21日発行

最終号

文責 中野善文

旅立ちの春 それぞれの別れ ～地域の方々に支えられた日々感謝！～

3月9日（土）に修了式、翌3月10日（日）には卒業証書授与式を挙行いたしました。

卒業式当日の朝、前日降った雪を払おうと思って登校してみると、そこには美しく整えられた駐車場が朝日に照らされて輝いていました。朝6時に地域の方が除雪してくださったと聞き、地域の方々に支えられていることをとても嬉しく思いました。

卒業式は厳かに執り行われ、これから自分の進路を切り拓いていこうとする17名の卒業生の意志の強さが一つ一つの所作に表れ、美しく凜と輝いて見えました。中学校を巣立つ卒業生の皆さんに式辞で「道」について話をしました。その一部を紹介します。



皆さんの前には、目に見えない無数の道があります。どの道を選ぶか、おそらく正解はありません。正解かどうかは、後で自分が決めるもの。大事なものは、そこに自分の意志があるのか、未来へのビジョンがあるのか。「意志あるところに道は開ける」「踏み出せば、その一足が道になる」のです。「この道より我を生かす道なしこの道を歩く」そういう道に出合えることを願っています。

道

道と言えば、学校報でも紹介していますが、2月の大雪のため学校外階段及び郵便局向かいの歩道が利用できなくなっていました。そこで、1・2年生がクラブごとに



除雪し見事開通しました。卒業式で地域の方にお世話になったように、生徒が地域のために頑張りました。そこにできた道を見て、わたしは「栄光の道」と名付けました。これからも、地域のために活躍する山中生でいてほしいです。

白樺のように凜と美しく 岡牛のように勇ましく

3年前に山形中学校に着任したとき、校門の白樺が凜とした立ち姿で出迎えてくれました。とてもすがすがしかったのを覚えています。また、当時の3年生を中心とした元気なエールが、わたしを含めた転入職員を大いに勇気づけてくれました。そのときに思ったのです。この学校を、山形町をこれまで以上に盛り上げ、共に発展していこうと。そして、その旗印として考えたのが「白樺のように凜と美しく、闘牛のように勇ましく」というキャッチフレーズです。

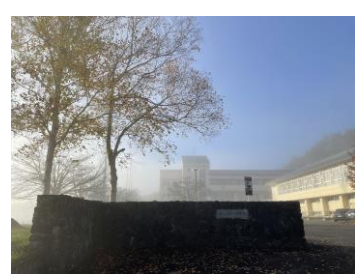
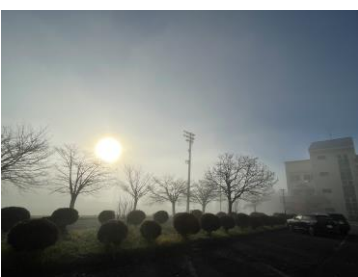
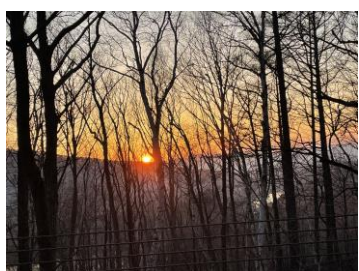
あれから3年間、素敵な生徒と職員に恵まれ、保護者ならびに地域の皆様に支えられながら学校経営を進めて参りました。学校評価は一部課題は

ありますが年々高まっています。3年間の集大成となった「未来ビジョン・ヤマガタ」は、生涯忘れることのできない宝物となりました。充実した3年間と皆様のご支援に感謝を申し上げます。



思わず足を
止めて撮影した

思い出の風景 in 山形 📷



毎日見慣れている山形の風景。でも、季節や時間・天候等によって様々な景色を映し出します。山形はなんと美しい町でしょう。ぜひ、山形の自然の美しさを日々感じ取っていきましょう。